

「一」(古代)・「二」(中世)・「三」(近世)・「四」(近・現代)のうち、自分の専攻する時代の問題を選んで解答せよ。但し、複数の時代を選ぶことはできない。

問「一」(古代) 次のA・B二問に答えよ。

A 次の史料を読んで問いに答えよ。

- (1) 全文を読み下せ。
- (2) 全文を現代語に訳せ。
- (3) 本史料に記されていることについて、知るところを述べよ。

し未大赦

天下詔曰比來緣有疫氣多發祈祭神祇
 猶未得可而今右大臣身體有勞寢膳不
 穩朕以規隱可大赦天下赦此痛苦自天平
 九年七月廿二日昧爽以前大辟罪已下減赦除
 之真犯八虐私鑄錢及強竊二盜常赦所不免
 者並不在赦限

B 次の史料を読んで問いに答えよ。

- (1) 引用関係に注意しながら、全文を読み下せ。
- (2) 全文を現代語に訳せ。
- (3) 本史料に記されていることについて、知るべきことを述べよ。

大政官符

應教還入境新羅人書

右大掌大貳後四位上藤原朝臣衛奏状傳新羅朝貢具
來尚美而起自聖武皇帝之代迄于聖朝不用舊例常
懷新心苞直不貢事上吉商賈窺國消息望請一切林赤
新不入境内者右大臣宣奉初文德澤泊遠外蕃自歸化
專禁入境事似不仁且化未流素死糧放還商賈之輩
僥悅來着所賣之物任聽民間令得迴易了即放却
但不得安賣鴻臚以給食

兼和九年八月十五日

問「二」(中世) 次のA・B・C三問に答えよ。

A (1) 左の史料の釈文を記せ。翻刻に際しては、原則として今日通用している字体を用い、適宜読点・並列点を付すこと。なお、誤写があると判断した場合は、当該文字の右傍に校訂注を付して構わない。

- (2) 傍線部①の読み方と意味を記せ。
- (3) 傍線部②の現代語訳を記せ。適宜言葉を補って構わない。
- (4) 傍線部③はここでは何を指すか。簡潔に答えよ。
- (5) 二重傍線部の天皇について、知るところを述べよ。

延元元年十一月廿日丙寅天晴但時有陰自此日天皇即位太
 改官正廳去年①回祿之後此廳在西廳被焚新造今復料得是
 高宗在養子年登廊其上後房朝所南東北之面門亦加修理
 又四面築垣皆以瓦實之乃為諸國役致其勤但東南西②
 新不若舊瓦全具構③四面中亦以此之面亦役國不合期之有④
 做覆築比也薩摩國役西面做葺築比之本致少治了役國不
 是之官良亦中築比紙也其實今及不及少治也自留少治内裏
 可者行年出御殊可致念之在在人官内大南⑤資宣春リ額責伏之
 間中將為供奉已始之齋了而為見物也立二條系洞院左大
公程臣 只今前頭五人一人逐齋之難也長泰久季同逐泰
内并着帳之有祖儀系廊門内 着花曰將衣 過西去矣宣奉
③ 是後奉官廳在年始是陣後諸司太令人

- (一) 左の史料の縦文を記せ。
 (二) 左の史料の大意を記せ。

十之廿二日、木村、一は、悪化、
 也、肝、要、を、以、て、木、村、と、て、聖、日、肝、
 要、と、年、末、大、心、行、を、家、村、の、所、制、の、成、直、
 忌、括、事、書、と、し、て、德、花、抄、と、し、て、右、
 一、恒、味、故、一、一、代、人、(一)、(一)、(一)、(一)、(一)、
 上、知、り、る、故、者、と、撰、り、白、井、去、言、
 石、考、と、し、て、宛、野、邊、と、し、て、(一)、(一)、(一)、(一)、
 古、切、く、恒、味、と、し、て、(一)、(一)、(一)、(一)、(一)、
 仁、道、の、物、と、し、て、(一)、(一)、(一)、(一)、(一)、
 者、毎、日、之、(一)、(一)、(一)、(一)、(一)

土月十日 氏名

安藤 〇〇

B 左の史料は、『異国日記』の一部である。これを読んで設問に答えよ。

- (1) 傍線部イ「濃毘敷般」とはどこか。当該期または現代の国名をカタカナで答えよ。
- (2) 傍線部ロを現代日本語訳せよ。
- (3) 傍線部ハを現代日本語訳せよ。

日本国 源平 復章

濃毘敷般國主 慶下
 来翰量測再三因循况方物如月錦能之惠意茲
 喜氣津之先之午貴國之商士惟暴風飛舟相推積
 不意適来吾邦不堪意遠之思彼整一巨船歸之章重
 恙而着岬之告報滿懷不淺貴國之吾邦隔結隣交
 而每歲商船性来互可通國寶者為世為人而善政如
 吾武邦吾邦者神國也自開闢以來敬神奉佛之興神
 垂跡同而古別矣堅君臣忠義之道霸國交盟之約
 渝委者皆誓以神為信之謹能守正者必得貴國成邦
 者必得貴國靈驗新如積其常仁義礼智信之道豈不在
 於茲乎貴國之所用法其趣甚異也於吾邦可其緣
 於釋典曰是緣衆生雜度於此計志者可思而止矣不可
 用之十三行以商船来性而賣買之利潤獨可專之貴國之商
 船来朝之時雖到着河之津浦之聊不可有異儀
 且日域中益加嚴命宜安心莫訝吾邦之宜備別幅投贈
 之采納惟希矣夫君已嚴順序保蓄二十二行

慶長十七龍集壬子夏六月 日二十二行

問〔四〕(近・現代) 次のA・B二問に答えよ。

A 次の史料を読み、設問に答えよ。

- (1) この書簡全文を楷書で記しなさい。
- (2) この書簡の書かれた年を西暦で記しなさい。
- (3) この書簡の差出人について知るところを二〇〇字程度で記しなさい。
- (4) 傍線aについて知るところを二〇〇字程度で記しなさい。
- (5) 傍線bの人物名及び同人物について知るところを二〇〇字程度で記しなさい。

昨今米穀騰貴
 注に中一形萬
 右換り浮寒突換
 日経特、表回
 一七激我其艱苦
 実、画像、多様
 考アリ為邦家其
 カカも所謝の如
 出心は構和之新
 衝、米國、昔新
 依、お起、お打、権
 脊、り、身、分、新、従
 之、新、水、之、の、地、所
 脱、是、を、修、与、京
 少、上、務、の、後、所
 之、地、所、を、時、に
 之、清、是、の、概、電

之、の、如、く、も、す、り
 有、る、及、細、陳、の、脈
 児、會、佐、川、少、將、に
 徳、澤、隆、子、の、業、も、亦、り
 一、の、新、地、極、度、の、所
 日、行、の、備、考、地、に
 有、る、事、も、一、つ、の、所、に
 キ、コ、ト、も、ハ、ナ、ク、一、
 ハ、ン、モ、ツ、ク、鴨、の、子、也、も
 有、る、事、も、亦、三、つ、の、所、に
 有、る、事、も、亦、多、く、も、
 有、る、事、も、亦、大、幸、也、も
 有、る、事、も、亦、宇、佐、少、將、の、
 事、情、も、亦、其、の、所、に
 有、る、事、も、亦、其、の、所、に
 有、る、事、も、亦、其、の、所、に

七月三。
 大山元脚

